

航空宇宙シンポジウム 2009
(平成 21 年 11 月 30 日～12 月 1 日)

報 告 書

平成 22 年 3 月

航空宇宙シンポジウム実行委員会

構成：愛知県、名古屋市、(社)中部航空宇宙技術センター、
(財)あいち産業振興機構、(財)名古屋都市産業振興公社

目 次

1 事業の概要	1～2
2 日程及び内容	3～8
3 記録写真	9～12
4 アンケート結果	13～14
5 案内リーフレット	15～16
6 実行委員会規約	17～18

1 事業の概要

- (1) 事業名 航空宇宙シンポジウム 2009
- (2) 開催日 平成 21 年 11 月 30 日（月）～ 12 月 1 日（火）
- (3) 開催場所 愛知県産業労働センター（ウインクあいち）
5 階（小ホール 2）・7 階（展示場）
名古屋市中村区名駅 4 丁目 4 - 38
- (4) 主催 航空宇宙シンポジウム実行委員会
構成団体：愛知県、名古屋市、(社)中部航空宇宙技術センター、
(財)あいち産業振興機構、(財)名古屋都市産業振興公社
- (5) 共催 名古屋商工会議所、(社)中部経済連合会
- (6) 後援 文部科学省、経済産業省、(独)宇宙航空研究開発機構、
(社)日本航空宇宙工業会、東海ものづくり創生協議会、
国立大学法人名古屋大学、国立大学法人名古屋工業大学

(7) 開催目的

航空宇宙産業は広範な産業分野の高度化を先導する重要な産業であり、今後の発展が強く期待されているが、近年の我が国航空宇宙産業は、国産初のジェット旅客機の開発や、国際共同プロジェクトによるボーイングの次世代旅客機 B 7 8 7 の開発の進展、H-II A、H-II B ロケットの生産が進められるなど大きな変化の中にある。

本シンポジウムは、こうした大きな変化の中にある航空宇宙産業に関する最新動向及び航空宇宙の最先端技術に関する情報交換・技術交流を行うとともに、多分野にわたる企業を対象として航空宇宙分野での新たなビジネスチャンスの創出を推進することにより、航空宇宙産業の製造機能及び研究機能を一層高め、もって愛知・名古屋地域を中心とした我が国の航空宇宙産業及び関連技術の発展に寄与することを目的とする。

(8) 参加者

- ・航空宇宙産業に関心のある中堅・中小企業者（広範な業種からの参加を募る）
- ・航空宇宙関連企業
- ・その他一般来場者

(9) 入場料

無料

(10) 入場者数

- ・講演会参加者 1,144 名（初日 664 名・2 日目 480 名）
- ・展示会入場者 981 名（初日 591 名・2 日目 390 名）

(11) 商談・相談会

受注側企業 101 社・発注側企業 8 社／面談件数 117 件

(12) 事業実施による効果

本シンポジウムは、航空宇宙産業界を取り巻く近年の大きな環境変化を踏まえ、航空宇宙関連の各分野から第一線の講師を招いて国の航空宇宙への取組方針や最新の業界動向などについての「講演会」を開催するとともに、航空宇宙関連の部品、最新技術や教育機関・エアラインを紹介する「展示会」、機体・エンジン・装備品・素材メーカー等と中小企業のマッチングの場としての「商談・相談会」も同時開催することにより、航空宇宙に関する最新の業界情報及び最先端の技術情報を提供し、航空宇宙産業の振興を支援することを目的として開催した。

開催にあたっては、国、JAXA、航空宇宙関連企業など、多くの機関・団体から協力を頂き、多くの参加者に満足をして頂くことができた（P 13・P 14 のアンケート結果参照）。特に、商談・相談会においては、発注側企業から見た受注側企業の印象としては「熱心である。」「技術的に優れた部分がある。」「今までの実績に対する自信が窺えた。」など、技術面、実践面に加え、中部地域の企業の情報が入手出来たなどの意見があった。従来、内向きで他地域への情報発信が比較的少なかった「中部地域の企業の情報」を得る機会であったことへの満足という評価であった。

また、入場者アンケートで、航空宇宙関連の事業に従事していないと回答した参加者が 32%（P13 参照）程度であったことや、「商談・相談会」に参加した企業の 44.4%（P14 参照）が他分野の企業であったことから、他分野の企業に対してのビジネスチャンスの創出も含め、本シンポジウムの目的である航空宇宙産業の振興支援に資することが出来たと考えられる。

本シンポジウムへは、地元の愛知県や岐阜県のみならず全国各地から多くの参加者があり、航空宇宙産業の集積地としての中部地域が全国的に注目・期待されている姿が窺えた。

(13) 今後の活動予定

アンケート結果によれば、航空宇宙産業の振興を支援するために必要な施策として「情報提供」が多く回答されている（参加一般企業／商・相談会での発注側企業）。その理由として航空宇宙産業への新規参入について「自動車産業の延長線上」ととらえており、特に品質管理の厳しさ、認証の取得の必要性ひいては社内体制の準備不足について、「現実との差異などを認識する方法が少ない点」を挙げている。この結果を踏まえ、今後、シンポジウムの内容をより充実させて開催するとともに、他に回答の多かった「技術支援」や「人材養成」についても産学行政が一つの活動のテーマとして、積極的に取り組んで行くこととする。

2 日程及び内容

(1) 講演 (11 月 30 日及び 12 月 1 日)

場 所：5 階 (小ホール 2)

内 容：基調講演、一般講演

ア. 11 月 30 日 (月)

10:30～11:10 【基調講演】「我が国の航空機宇宙産業の最近の動向について」

経済産業省製造産業局 航空機武器宇宙産業課長 広瀬 直 氏

(講演要旨) 航空機宇宙産業は裾野の広い産業であり、高度な技術力と信頼性が求められる。そこで実証された技術は他の産業分野で応用されるなど日本の製造業全体を引っ張り上げており、我が国の成長戦略の中心として位置づけられ期待されている。世界的な市場動向として今後国防関連需要は削減もしくは横ばいが予測されているが、民間需要は経済のグローバル化の流れの中で中・長期的には経済成長を上回る需要増が見込まれる。現況の我が国の航空機宇宙産業は、国内の機械工業の中の位置づけで全体の 1 % ほど、自動車産業と比べると 1/30 と小さく、米国の航空機産業と比べれば 1 桁違いの規模であり、今後の民間機需要をいかに発展につなげていくかが課題。大型航空機は海外企業 2 社の寡占状態であるが、ジャストインタイム生産方式を取り入れ、いわゆる国際共同開発が中心となってきた、国際的な競争激化の中でも着実にシェアを伸ばしてきている。一方、MRJ など全機開発への期待もある。いずれにせよ「環境」「経済効率」「安全」の 3 つの柱でイノベーションを進め国際競争力を高めていくことが重要。また宇宙開発においては、宇宙基本法もでき、今後は分野研究から利用まで一体となった施策で宇宙産業育成や安全保障まで戦略的な動きになってくる。

11:10～11:50 【基調講演】「宇宙分野の研究開発について」

文部科学省研究開発局 参事官

松尾 浩道 氏

(講演要旨) 世界で 4 番目に人工衛星を打ち上げた我が国は、様々な試練を乗り越えながら全段自主開発の大型液体ロケットを生み出し、一昨日には H-IIA ロケット 16 号機の打上げに成功。大型ロケットとして 11 機連続で成功中であり国際的評価を高めつつある。本日の参加者を含めた関係者の努力に敬意を表する。他方、固体ロケットも世界最高性能のものを開発し、運用性をより高めより経済的なものとする取組を継続中。宇宙科学はこれら全体を支えつつ、日本の強みを活かした衛星による観測・探査等で世界に冠たる成果をあげつつある。平成 20 年に議員立法でできた宇宙基本法に基づき、司令塔たる宇宙開発戦略本部が活動を始め、本年 6 月に宇宙基本計画が策定された。その中で、研究開発力を高めつつ宇宙利用を重視していくという基本方針の下、衛星利用の拡大、宇宙産業の育成は最重点の一つ。このため衛星利用の促進や超小型衛星の開発促進を行う事業を本年度に始めるなどしているが、引き続き積極的に取り組む。なお、航空科学技術も文科省の大事な施策であり、特に中部地区での産学官連携の発展を重視しつつ、取り組んでいく。

13：30～14：20 「国際旅客機 MRJ を世界の空へ」

三菱航空機株式会社 取締役副会長

戸田 信雄 氏

(講演要旨) 人類初の動力飛行に成功したライト兄弟は、技術者であると同時に事業者としての意思をもって挑んだ。当時の最新の技術を使い、周到な実施手順を踏まえて初飛行を成功させ、1910年には「ライト A 型」を日本に輸出した。これが世界の航空機産業の原点であり、100 年たった今 MRJ の開発に挑むにあたってその思いを共有したい。MRJ の M は「みなさん」の M であり、「乗客」と「環境」と「エアライン」という 3 つのステークホルダーにとって新しい価値を提供することがこの機体のビジョンである。「乗客」には限られたスペースでいかに快適な空間を提供できるか。「環境」では少ない排出物と低騒音の実現。「エアライン」にとっては優れた運航経済性であり、少ない運航コストで大きい収益が得られる機体でなければならない。開発にあたっては多くの国内企業と国の支援を受けており「日本を挙げて」のプロジェクトである。これまで海外航空機メーカーの T i e r 1 であった我々自身が、自らがインテグレーターとなり、新たなサプライチェーンの構築により、今後の航空機産業を主導していくことで、この産業を大きくしていく道があると考えている。又、息の長い事業になるが、「覚悟」をもって取り組んでいきたい。

14：20～15：10 「航空機産業における生産技術について」

川崎重工業株式会社 航空宇宙カンパニー

生産本部長 石川 主典 氏

(講演要旨) 航空機産業における生産技術の課題として、極限の軽量化設計への対応、多品種少量・中量生産への対応、厳しい高精度・高品質要求への対応といったものがあり、こうしたものが生産技術のあり方を決めてきた。一方、多様な材料、多様な加工法に対応しなければならないだけでなく、多品種少量生産のため、ライン化・自動化への制約がある。また、航空機特有の要求への対応ということで、JISQ9100 の品質要求や設備 / 工程への認定制度の問題、さらには航空機のライフサイクルにあわせて長期に亘って製造しなければならない点や長期にわたる投資回収などの課題もある。受注環境からみると、海外メーカーとの競争激化がある一方で、国際分業体制という点ではリスクシェアパートナーとして開発の段階から参加することが求められ、個々の技術力だけでなく、提案力が評価される時代となっている。また新素材やそれに伴うコスト構造変化への対応をはじめ、厳しい競争に勝つための生産技術の差別化が重要になっており、そのための独自技術を磨く必要があると考える。このような課題を受けて我々としては、組立工程の工期短縮・工数削減、複合材成形の低コスト化、機械加工の高効率化、刃具費の低減、板金加工の試作レス化などのテーマに取り組んでいる。今後も皆様との連携を一層深めながら、日本の航空機産業の発展に寄与していきたい。

イ. 12月1日(火)

10:30～11:15 「炭素繊維複合材料の先進成形技術について」

東レ株式会社 A&A センター

アドバンスドコンポジットセンター所長

関戸 俊英 氏

(講演要旨) 炭素繊維は「日本の材料」であり世界の市場の70%強を占めている。軽量で高強度だけではなく疲労特性やクリープ特性にも優れ、耐熱性や電磁波遮蔽性能が高いなど航空宇宙分野や自動車など厳しい条件に対応できる優れた素材である。その成形技術に関しての現状の大きな課題は「如何に高品質のものをより安価に作れるか」である。自動車用途に対しては革新的な新規 RTM 成形法としてハイサイクル成形技術を開発し、従来比 1 / 10 以下の成形時間短縮によって大幅なコストダウンの可能性を見出した。具体的には超高速硬化樹脂材料、2～3分で樹脂含浸させる技術、プリフォームの自動化技術などを開発した。また航空機分野では、最新大型旅客機(B787)において重量比50%がカーボン化され、燃費が20%軽減して温室効果ガスも15%～29%削減できると期待されている。成形技術では、高強度の従来材であるプリプレグ成形法に対して、複雑形状をより安価に成形可能な革新 VaRTM(先進的な真空 RTM 成形法)を開発した。課題であったプリプレグと同等の強度を発揮させるために、成形方法の改良と新規材料の開発によって大幅な靱性の改善に成功し、マイクロクラックフリーで、且つプリプレグ対比低コストの革新的な成形技術を確立した。成形効率がよく、製造コスト低減の目途が立ったことから、今後の航空機部材(例えば、国産旅客機 MRJ)への適用が期待される。

11:15～12:00 「航空機開発における JAXA 航空の役割」

独立行政法人宇宙航空研究開発機構 航空プログラムグループ

航空プログラムディレクタ

鈴木 和雄 氏

(講演要旨) 基本方針として航空機産業成長への貢献と将来航空輸送のブレークスルーを主眼においている。現時点での我が国の航空機開発の優位点は「複合材技術」「エンジン技術」「コンピューターシミュレーション技術」が挙げられる。こうした優位技術をさらに磨いて、国際共同開発における主体性を確保しながら「日本ブランド」を獲得し、国際競争力を高め航空機産業を我が国の基幹産業に成長させていかなければならない。そのための JAXA の役割は、社会の要請を踏まえた先端的・基盤的な研究、技術の高度化、データベースの構築、国際基準を決める際に日本の立場を主張できるよう技術のバックグラウンドを構築すること、型式証明の技術的支援、事故調査への対応などがある。将来の基幹産業に育てていくために必要な人材の育成や、産業界や大学と連携することにより日本の少ないリソースを有効活用すること、そして国際協力や情報開示といった活動をしていく。先端技術開発のプロジェクトは現在のビジネスに直結しないという見方もあるが、実際には航空機用途拡大や技術のブレークスルーが航空市場の拡大や国際的な信用につながり人材の育成にも貢献していくことになる。国産旅客機などの開発支援に加えて、超音速旅客機、極超音速機の開発といった将来航空輸

送にむけての研究及び各種試験設備の供用とデータベース構築、対外協力の推進などに貢献してゆく。

13：30～14：15 「航空機産業への参入とその後 ～表面処理と加工技術～」

旭金属工業株式会社 常務取締役

中村 止 氏

(講演要旨) 京都老舗の醤油屋からメッキ屋へ。そして昭和 51 年硬質クロムメッキから航空機産業に参入。研鑽と投資を重ねる中で表面処理、塗装、機械加工まで事業の幅を広げてきた。以降、チャンスと苦難に繰り返し遭遇したがグループ会社で互いに助け合ってきた。新型機が始まる時はチャンスであるが先行投資を迫られる。社会動向によって影響を受けやすい半面、非常に息の長い産業で長期にわたる人材育成が必要だと考える。そうした中での当社の今後の課題と展開としては、第一に生産量の確保が挙げられる。幸いなことに国内では防衛省向け P-1 (哨戒機) の量産開始、C-X (次期輸送機) の開発・量産そして MRJ の開発・量産があり、海外では B787 など、それらの開発が成功し量産化されることによって当社の生産量は確保していけるだろう。第二に、安くモノが作れるシステムの構築が重要。次にはオンリーワンの技術をもつこと。世界に 1 社しかない技術があれば強い。さらにはサービスの提供。緊急な要望にも対応できる柔軟な組織力が欠かせない。五つ目はワンストップショップであり、バーチャルインテグレーションの能力を持つこと。たとえば、自分のところの設備能力がなかったとしても周囲の企業との協業体制を構築して対応していくことが重要だと考える。

14：15～14：55 「Building the future of aviation」

ボーイング社 オペレーション、ストラテジー担当

ディレクター

トーマス・ブレケンリッジ 氏

(講演要旨) 航空機業界は過去から今日まで数多くの試練に遭遇しながらも着実に成長してきた。今後 20 年の市場予測としては世界全体で 29,000 機、金額にすると 3 兆 2,000 億ドルを見込んでいる。特に日本が位置するアジア太平洋地域の市場拡大はめざましい。我々にとってもサプライヤーの皆様にとっても大きなビジネスチャンスがあるということだ。ではどうやってその大きな市場を獲得していくか？ボーイング社は常々「すべてはお客様とはじまり、すべてはお客様と終わる」をスローガンとしている。我々のお客様は何を望んでいるか。第一には市場に合致した航空機、次には環境を守るために先進的技術を備えたもの、そして航続距離・スピード・信頼性・コスト等顧客ニーズに対するさまざまな対応力を求めている。これら顧客の要求はボーイング社がサプライヤーに求める要求となる。多様な顧客ニーズに対してサプライヤーとの緊密なパートナーシップを構築することが重要と我々は考えている。非常に競争の激しい民間航空機市場で顧客ニーズに合った航空機を開発し、リーダーシップを発揮し続けるためにも先進的技術に強みをもった企業の参加を大いに期待している。

(2) 展示会及び商談・相談会 (11月30日及び12月1日)

場 所：7階 (展示場)

内 容：ア. 展示 イ. 商談・相談会

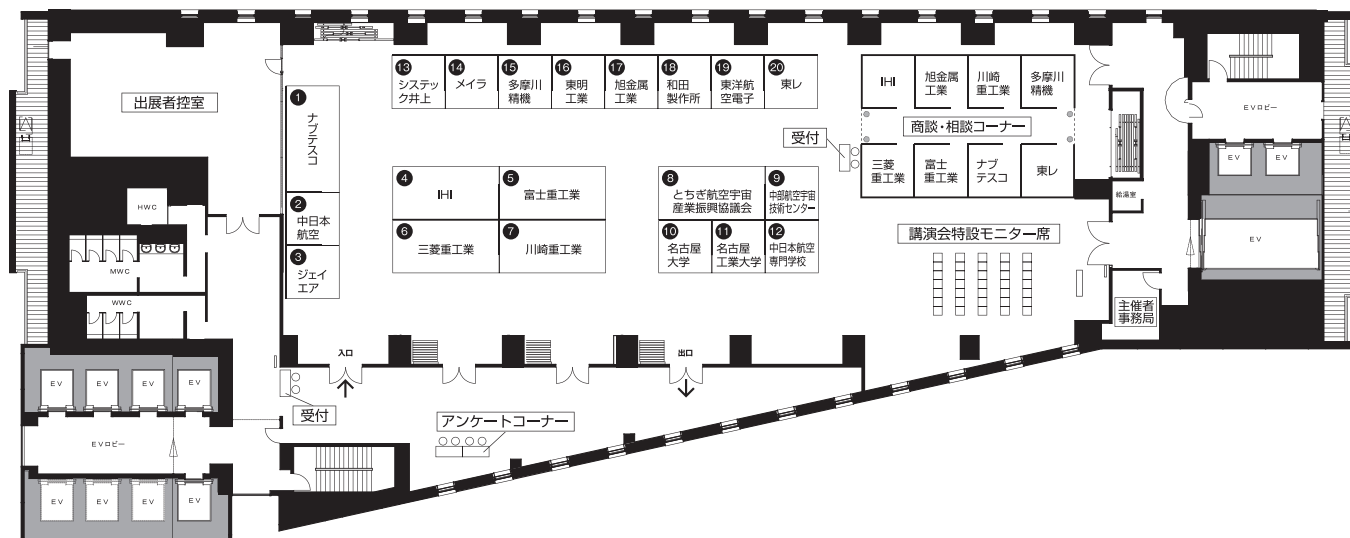
ア. 展 示 20社・団体 (展示物及び説明・研究内容等のパネル展示)
(教育機関3・エアライン2・航空宇宙関連企業13・団体2)
計20ブース

- | | |
|-------------------|----------------|
| ①ナブテスコ株式会社 | ⑪国立大学法人名古屋工業大学 |
| ②中日本航空株式会社 | ⑫学校法人中日本航空専門学校 |
| ③株式会社ジェイエア | ⑬株式会社システック井上 |
| ④株式会社 IHI | ⑭メイラ株式会社 |
| ⑤富士重工業株式会社 | ⑮多摩川精機株式会社 |
| ⑥三菱重工業株式会社 | ⑯東明工業株式会社 |
| ⑦川崎重工業株式会社 | ⑰旭金属工業株式会社 |
| ⑧とちぎ航空宇宙産業振興協議会 | ⑱株式会社和田製作所 |
| ⑨社団法人中部航空宇宙技術センター | ⑲東洋航空電子株式会社 |
| ⑩国立大学法人名古屋大学 | ⑳東レ株式会社 |

イ. 商談・相談会 発注側企業 8社 () 内は面談件数

株式会社 IHI (12)	三菱重工業株式会社 (10)
旭金属工業株式会社 (20)	富士重工業株式会社 (18)
川崎重工業株式会社 (18)	ナブテスコ株式会社 (13)
多摩川精機株式会社 (6)	東レ株式会社 (20)

ウ. 展示会場レイアウト図



3 記録写真

●開会式（平成 21 年 11 月 30 日）



愛知県副知事 稲垣 隆司



名古屋市市民経済局 理事 長谷川 二三夫

●講演会（平成 21 年 11 月 30 日）



経済産業省製造産業局 航空機武器宇宙産業課
課長 広瀬 直 氏



文部科学省研究開発局
参事官 松尾 浩道 氏



三菱航空機株式会社
取締役副会長 戸田 信雄 氏



川崎重工業株式会社 航空宇宙カンパニー
生産本部長 石川 主典 氏

●講演会（平成 21 年 12 月 1 日）



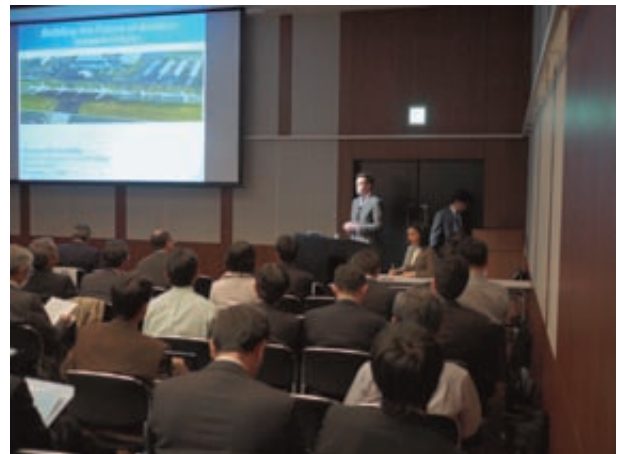
東レ株式会社 A&A センター
アドバンスドコンポジット
センター所長 関戸 俊英 氏



独立行政法人宇宙航空研究開発機構 航空プログラムグループ
航空プログラムディレクタ 鈴木 和雄 氏



旭金属工業株式会社
常務取締役 中村 止 氏



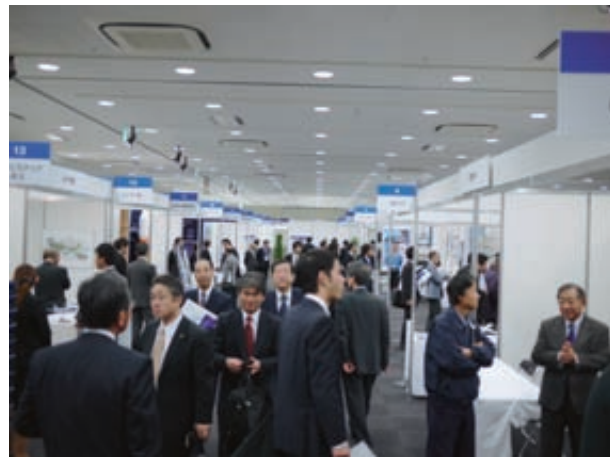
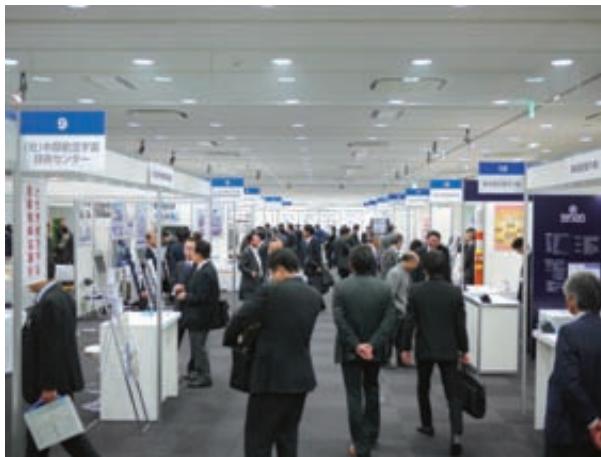
ボーイング社 オペレーション、ストラテジー担当
ディレクター トーマス・ブレケンリッジ 氏

●シンポジウム実行委員長 御礼挨拶



シンポジウム実行委員長 (社)中部航空宇宙技術センター
専務理事 近藤 靖彦

●展示場風景



展示会場全景

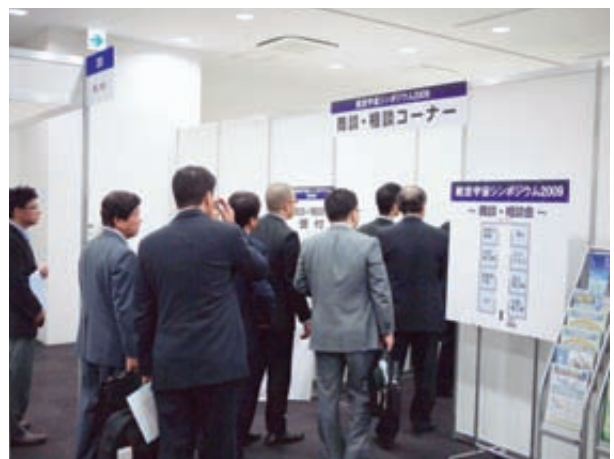


展示会場ブース風景



展示会場ブース風景

●商談・相談会



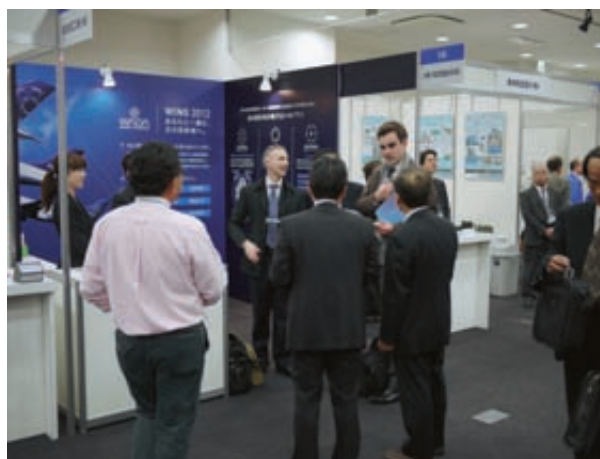
商談・相談会風景

●特設モニター席



7階展示場内特設モニター席風景

●展示場風景

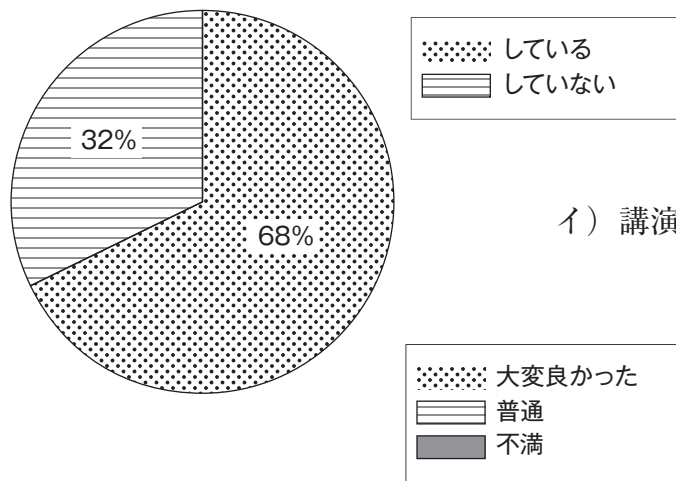


展示会場視察風景
トーマス・ブレケンリッジ氏（ボーイング社）

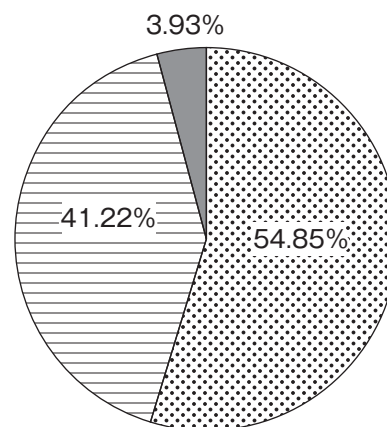
4 アンケート結果（抜粋）

(1) 講演会・展示会

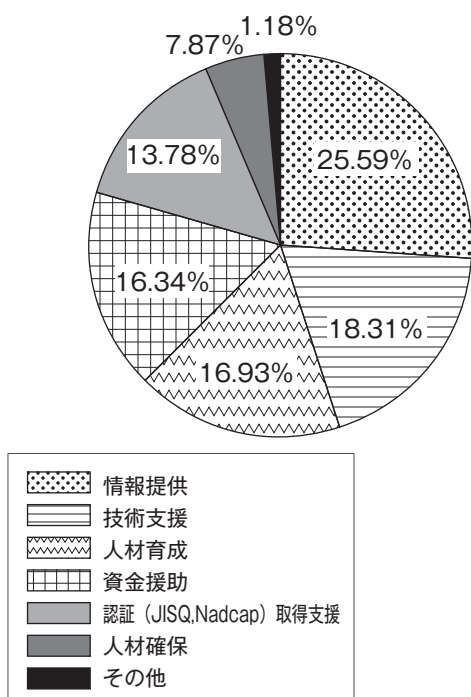
ア) 現在、航空宇宙関連の仕事（研究を含む）
をしていますか。



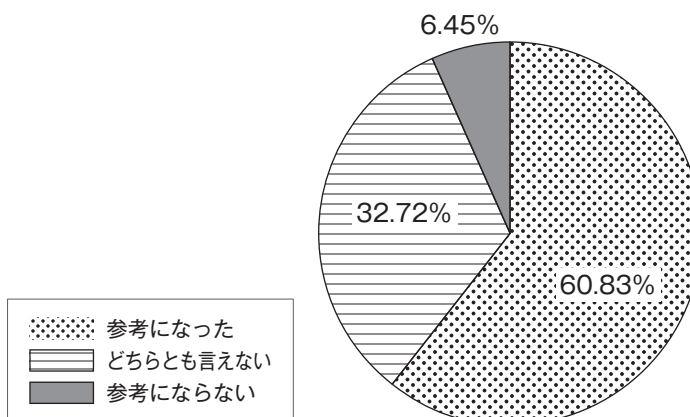
イ) 講演の感想はどうでしたか。



ウ) 航空宇宙産業の振興を支援するには、
どのような施策が必要と思われますか。

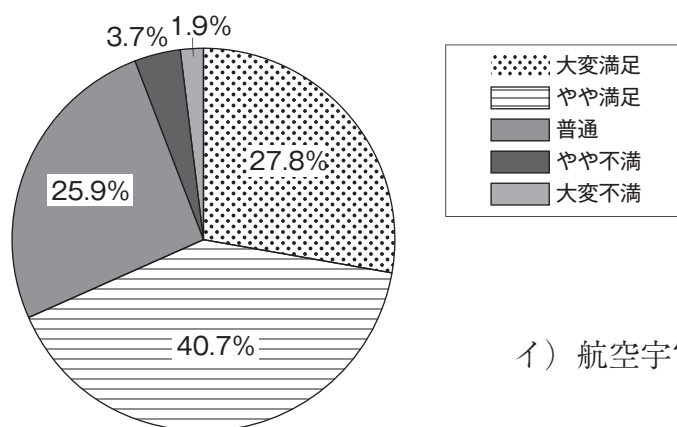


エ) 展示会は参考になりましたか。

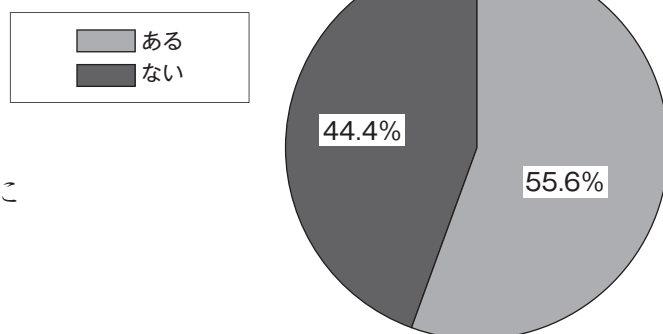


(2) 商談・相談会

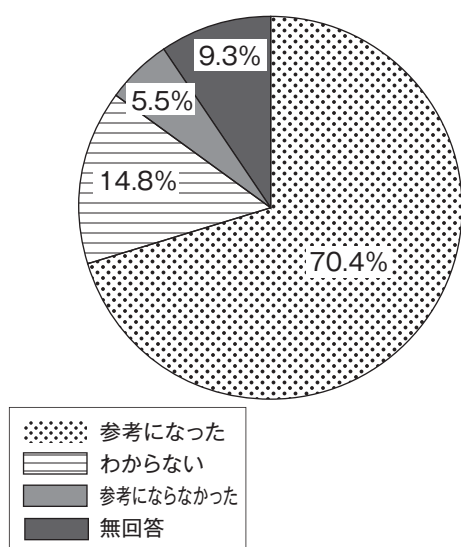
ア) 商談・相談会の感想について



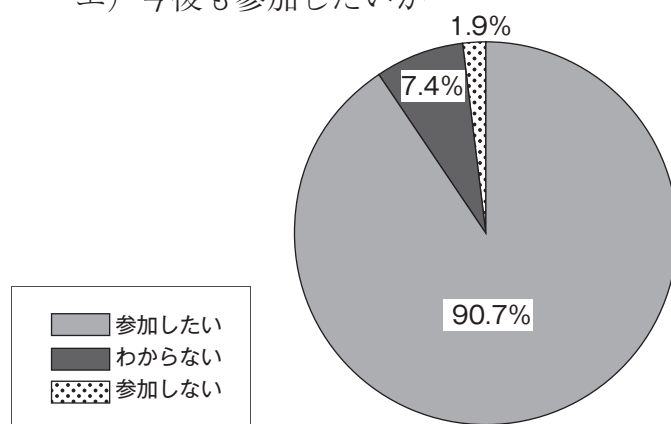
イ) 航空宇宙関連企業との取引について



ウ) 航空宇宙分野に参入するために参考になったか



エ) 今後も参加したいか



航空宇宙シンポジウム2009

空へ、そして宇宙へ
あの頃見上げていた夢に先端技術の結集をのせて
今、中部からの飛翔

- ◆会 期 平成21年11月30日(月)～12月1日(火)
- ◆会 場 愛知県産業労働センター(ウインクあいち)
(名古屋市中村区名駅四丁目4-38)
- ◆入場無料 講演会については事前申込が必要です。
申込期限11月20日(金)

- ◆主催 航空宇宙シンポジウム実行委員会(構成:愛知県、名古屋市、(社)中部航空宇宙技術センター、
(財)あいち産業振興機構、(財)名古屋都市産業振興公社)
- ◆共催 名古屋商工会議所、(社)中部経済連合会
- ◆後援 経済産業省、文部科学省、(独)宇宙航空研究開発機構、(社)日本航空宇宙工業会、
東海ものづくり創生協議会、国立大学法人名古屋大学、国立大学法人名古屋工業大学

写真提供 (独)宇宙航空研究開発機構
中部国際空港(株)

航空宇宙シンポジウム2009

● 講演会 会場 5階 小ホール2

11月30日(月)	午前の部	10:20～10:30	開 会		
		10:30～11:10	〈基調講演〉我が国の航空機宇宙産業の最近の動向について	経済産業省製造産業局 航空機武器宇宙産業課長	広瀬 直 氏
		11:10～11:50	〈基調講演〉宇宙分野の研究開発について	文部科学省研究開発局参事官	松尾 浩道 氏
	午後の部	13:30～14:20	国産旅客機MRJを世界の空へ	三菱航空機(株)取締役副会長	戸田 信雄 氏
		14:20～15:10	航空機産業における生産技術について	川崎重工業(株) 航空宇宙カンパニー生産本部長	石川 主典 氏
12月1日(火)	午前の部	10:30～11:15	炭素繊維複合材料の先進成形技術について	東レ(株)A&Aセンター アドバンスドコンポジットセンター 所長	関戸 俊英 氏
		11:15～12:00	航空機開発におけるJAXA航空の役割	(独)宇宙航空研究開発機構 航空プログラムグループ 航空プログラムディレクター	鈴木 和雄 氏
	午後の部	13:30～14:15	航空機産業への参入とその後～表面処理と加工技術～	旭金属工業(株) 常務取締役	中村 止 氏
		14:15～14:55	Building the future of aviation	ボーイング社 オペレーション、ストラテジー担当 ディレクター	トーマス・ブレケンリッジ 氏

都合により、日時・講師・内容など変更する場合があります。

● 展示会 時間: 10時～16時30分 (11月30日及び12月1日)

会場: 7階 展示場

出展者一覧

(株)IHI、旭金属工業(株)、川崎重工業(株)、(株)ジェイエア、
(株)システック井上、多摩川精機(株)、東明工業(株)、東洋航空電子(株)、
東レ(株)、とちぎ航空宇宙産業振興協議会、中日本航空(株)、中日本航空専門学校、
国立大学法人名古屋工業大学、国立大学法人名古屋大学、ナブテスコ(株)、
富士重工業(株)、三菱重工業(株)、メイラ(株)、(株)和田製作所
ほか (50音順)

◆参加申込方法

講演会参加申込に当たっては、FAX または電子メールでお申し込みください。

・FAX の場合

下記の参加申込書にご記入の上、052-218-8528 までお送りください。

・電子メールの場合

件名に「航空宇宙シンポジウム参加申込書」とご記入の上、下記の参加申込書の内容を本文に記載し、
information@c-astec.tcp.jp までお送り下さい。

お申込多数の場合、定員(250名)になり次第、締め切らせて頂きます。

また、余裕がある場合には、締め切後も受け付けますので、下記実行委員会までお問い合わせください。

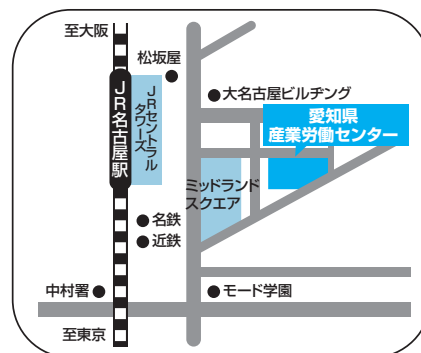
◆お申し込み・お問い合わせ先

航空宇宙シンポジウム実行委員会

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目9-26(ポラ名古屋ビル10階) (社)中部航空宇宙技術センター内

電話: 052-221-6681 FAX: 052-218-8528 E-mail: information@c-astec.tcp.jp

※商談・相談会も同時開催します。詳しくは、(財)あいち産業振興機構のホームページ(<http://www.aibsc.jp/torihiki/aero2009.htm>)
をご覧ください。



～アクセス～
名古屋駅より徒歩2分

講演会参加申込書 申込期限 11月20日(金)			11月30日(月)		12月1日(火)	
勤務先・学校名		参加希望区分 に○を記入して 下さい →	午前の部	午後の部	午前の部	午後の部
部署名						
役職		氏名				
住所	〒					
TEL.	FAX.		E-mail			

6 航空宇宙シンポジウム実行委員会 規約

(名称)

第1条 本会は、航空宇宙シンポジウム実行委員会（以下「委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 委員会は、「航空宇宙シンポジウム」の企画及び運営について審議し、円滑な事業の推進を図ることを目的とする。

(構成)

第3条 委員会は、愛知県、名古屋市、社団法人中部航空宇宙技術センター、財団法人あいち産業振興機構、財団法人名古屋都市産業振興公社をもって構成する。

(役員)

第4条 委員会に、次の役員をおく。

- (1) 委員長 1名
- (2) 副委員長 2名
- (3) 委員 若干名
- (4) 監事 2名

(役員を選任)

第5条 委員会の役員は、各構成団体の職員のうち別添に掲げる職にあるものをもってこれにあてる。

(役員職務)

第6条 委員長は、委員会を代表し、会務を統括する。

2 副委員長は、委員長に事故があるとき、又は欠けたときにその職務を代理する。

3 委員は、会務を審議し、運営する。

4 監事は、委員会の会計を監査する。

(委員会の開催)

第7条 委員会は、委員長が必要に応じて招集し、委員長が議長となる。

(事務局)

第8条 委員会の事務局は、社団法人中部航空宇宙技術センターに置く。

(会計)

第9条 委員会の経費は、愛知県、名古屋市、社団法人中部航空宇宙技術センター、財団法人あいち産業振興機構、財団法人名古屋都市産業振興公社の負担金などの収入をもってあてる。

第10条 委員会は、その目的達成後に解散する。

第11条 この規約に定めるもののほか、必要な事項は、委員長がこれを定める。

附則

この規約は、平成21年6月3日から施行する。

別添

航空宇宙シンポジウム実行委員会 名簿

委員長	社団法人中部航空宇宙技術センター専務理事	近藤 靖彦
副委員長	愛知県産業労働部技監	岩田 勇二
	名古屋市市民経済局産業部長	岸上 幹央
委員	愛知県産業労働部新産業課長	高須 恭夫
	名古屋市市民経済局産業部産業育成課長	神谷 篤治
	財団法人あいち産業振興機構経営支援部長	堀尾 真行
	財団法人名古屋都市産業振興公社施設営業担当部長	織田 丈夫
監事	愛知県産業労働部新産業課主幹	進士 研三
	名古屋市市民経済局産業部主幹	近藤 善紀

「航空宇宙シンポジウム2009」報告書

発行年月 平成 22 年 3 月

編集発行 航空宇宙シンポジウム実行委員会

構成 愛知県、名古屋市、(社) 中部航空宇宙技術センター、
(財) あいち産業振興機構、(財) 名古屋都市産業振興公社
事務局

〒 460-0008 名古屋市中区栄二丁目 9 - 26

ポーラ名古屋ビル 10 F

(社) 中部航空宇宙技術センター内

電 話：0 5 2 - 2 2 1 - 6 6 8 1

F A X：0 5 2 - 2 1 8 - 8 5 2 8